

評価コメント

- e-ラーニングによる教育システムを作成したことは評価できる。今後はこれの普及と採用を図るべきではなかろうか。広く採用されてこそ作成の意義があると考えます。
- 学会と連携して認定制度となるようなe-ラーニングになっており評価できるがさらに周知されることが望ましい。他学会との連携を密に行い、医療現場での認知度を上げることが重要と思われる。
- 以前より研修事業推進のために、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、養護教員などの各職種の中から、喘息、アレルギー疾患患者の教育指導を専門とする人材を養成し、各地で行われる事業に派遣して、事業を充実することを提唱していたが、全国に広く人材を養成する仕組みを考案したことは、優れた発想である。職種ごとの重点科目と難易度を考慮するのも一法と考える。
- 小児喘息患者の治療管理にコメディカルを活用するために教育システムについて、一定の方向付けができたことを評価する。
- e-ラーニングのコンテンツが充実し運用実績にも一定の成果が認められる。アレルギー専門コメディカルスタッフの養成、認定は小児喘息の予防、治療の本邦における質的向上に資することが期待できる。
- 日本看護協会の専門認定ナースとの整合性、保険診療制度への反映などを同時進行的に考慮することが望ましい。
- アレルギー疾患全般にわたって患者教育ができるようなコメディカルスタッフを養成することは有用な企画である。米国のコメディカルスタッフの認定資格制度を一つのモデルとして目指しているようであるが、わが国においてアレルギー以外の他の疾患分野でこのような取り組みが行われているかどうか調べてみる必要がある。
- 認定試験や資格制度は十分にオーソライズされたものでなければならない。人件費などコストの問題も高いハードルになる。そのハードルを越えるためには、コメディカルスタッフの実際の臨床的な有用性を実証しなければならない。
- 日本アレルギー学会、小児アレルギー学会等多くの学会との連携が必要である。達成された業績をいかに広く普及させるかを考慮して欲しい。
- e-ラーニングは有用なシステムであり、より幅広い利用が望ましい。エドューケーターの方々の業績または報告書を作成する必要があるのでは？